薪ストーブ

札幌医科大学医師会
札幌医科大学血液内科
池田　　博

うちに帰ると薪ストーブがある。今の時期はこの薪ストーブの暖かさが迎えてくれるので、寒い外から帰ってくるとゆっくりと薪ストーブの前であったまってしまうのが習慣となっている。

毎日火を起こしているが、気温や湿度などで火の形や暖まり方が微妙に異なる。そのような多少手のかかる薪ストーブでの暖まることはすっかり私の趣味となった。薪にもいろいろと種類があり、私が一番好きな薪はしらかばの木である。白くてよく燃えるし火が長持ちする。

そのうちに薪集めも工夫するようになり、できるだけ安く仕入れるように玉切りと呼ばれる丸太の木を安く買い、それを斧で割って薪にして半年から１年ほど乾燥させたものを使用している。割ると１立米の丸太が1.5立米ほどになる。多少汗をかく運動にもなるし、筋力トレーニングにもなる。小さい薪は妻も時々楽しんで割っているようだ。楽しい気分になる。

うちの前におく薪ラックも買った。薪ラックにはいつも薪が４～５立米ほど入っており、なくなると薪を買わなくてはいけない気になる。

家を建てた当時は、床暖房も完備してパネルヒーターもあるところから、薪ストーブは些細な暖房道具で、メインにはならないだろうと考えていた。しかしながら給湯器の故障や地震などのたびに薪ストーブがあるだけでかなり活躍してくれた。また部屋を暖かくして安心させてくれた。今後とも薪ストーブを大事にしていこうと思っている。

うちで活躍する薪ストーブ

道路の雪問題の解決策

札幌市医師会
さっぽろ不整脈クリニック
櫻井聖一郎

今年の冬は、最初は雪が少なく、このまま春を迎えることを期待していましたが、結局帳尻があっていつも通り道路わきには雪山ができ、主要道路以外は一方通行状態になりました。バスももちろん影響されますから通勤に時間を要しますし、歩道がきちんと除雪されていなければ歩行者も危険です。この状況は、小生の子供の時から何も変わっていません。ロードヒーティングは経費削減からむしろ減らされているそうです。これだけ世の中発展しているのに、なぜ雪問題は解決されていないのでしょう？

小生３年ほどアメリカのオハイオ州クリーブランドに留学しておりましたが、除雪システムは確立されていて困ったことはありませんでした。主要道路は大きな除雪車が完璧にきれいにします。融雪剤をたくさんまくので車は白くなり、いたみは早いと言われていました。それよりも何がすごいかというと、小さなトラック（昔でいうダットサントラックやハイラックストラックです）の前にショベルを付けた車がわんさかいて、雪がちょっと積もると夜中に一斉に出動して、朝出勤の時には家の前もきれいになっています。１シーズン３万円程度だったと思います。家と家が離れていて土地があるのでできるシステムであり、札幌の住宅街では難しいかもしれませんが、きちんと対策されていました。

さて日本に話を戻しますが、何とかならないものかといつも考えておりましたある日、麻生にある下水道記念館を家族で訪れた際にこれだ！と思うことがありました。旭化成が下水道の熱を利用したロードヒーティングを行っていたんです。下水道は道路下に張り巡らされていますよね。ただ道路全面をロードヒーティングにすることはコスト的にもヒーティング能力的にも困難かと思いますので、道路の端だけヒーティングして除雪車が雪を端によせる。この方法であれば除雪で生活している人も、職を失うことはなくなりますし、道路の雪問題は解決できるのではないでしょうか。そう思い立ち旭化成にメールしてみましたが、まったく返事が来ませんでした。今度は直接電話してみようかと思っています。小生が70歳くらいになるまでには雪問題が解決していることを切に願って已みません。